

# 札幌医学技術福祉歯科専門学校 学校関係者評価報告書

平成29年12月7日

学校法人西野学園

札幌医学技術福祉歯科専門学校

## 1 はじめに

本年度実施の学校関係者評価委員会において、委員の方々に「平成28年度学校自己評価」に基づき評価していただいた、その結果についてご報告いたします。

委員には事前に「平成28年度学校自己評価」を配付した上で、学校関係者評価委員会でご意見・ご要望を頂戴いたしました。評価していただいた結果に対しては速やかに改善策を講じ、組織的・継続的に、地域社会のニーズに適合した学校運営や教育課程の編成・実施に取り組む所存です。

## 2 学校関係者評価委員名簿

| 氏名     | 所属                                      |
|--------|---|
| 福井 誠一  | 元北海道札幌東高等学校 校長<br>元札幌医学技術福祉歯科専門学校 校長    |
| 品川 雅明  | 札幌医科大学附属病院 検査部 主任技師                     |
| 早瀬 健太郎 | 医療法人社団 祐川整形外科医院 リハビリテーション科 科長           |
| 松本 剛一  | 社会福祉法人ほくろう福祉協会 理事長                      |
| 室橋 高男  | 札幌医科大学附属病院 臨床工学部・医療安全部 主任技師             |
| 藪 貴代美  | 北海道言語聴覚士会 副会長<br>(医療法人明日佳 札幌宮の沢脳神経外科病院) |
| 吉田 建志  | 医療法人社団 デンタルクリニック大通り 理事長                 |
| 松田 弘   | 札幌市中央区西第八町内会 会長                         |

## 3 学校関係者評価委員会開催日時

第1回 平成29年 7月10日(月) 18:30~20:30

第2回 平成29年10月11日(水) 18:30~20:30

平成28年度学校自己評価結果に基づく学校関係者評価一覧

札幌医学校福祉歯科専門学校

| 評価項目                           |   | 学校自己評価             |  | 学校関係者評価   |
|--------------------------------|---|--------------------|--|---|
|                                |   | 28年度               |  |   |
| I 教育理念・目標                      | 1 理念・目標・育成人材は定められているか。  | 4.5                | H28年度教育計画に定められている。<br>※学生便覧、教育計画   | 教育理念や目標などは教育計画によって明確になっているが、学生・保護者への周知に若干の課題があると言え、今後の改善を期待したい。   |
|                                | 2 社会のニーズ等を踏まえた学校の構想を抱えているか。   | 4.5                | 学校教育重点目標で謳い、学校の中長期計画の中で、学生確保や学校の将来像を構築している。  |   |
|                                | 3 理念・目的・育成人材像・特色などが学生・保護者等に周知されているか。                                | 4.1                | ホームページで公表している。また学生便覧に記載されており、学生には入学オリエンテーション時、保護者には保護者懇談会等で周知している。<br>※ホームページ、学生便覧、教育計画  |   |
| II 学校運営                        | 4 目標等に沿った運営方針が策定されているか。   | 4.4                | 学園の教育理念、教育目標等に基づき、学校の教育目標及び教育方針が定められ、各学科の経営計画の中で経営目標、重点目標、実践方策が策定されている。<br>※教育計画、学校組織図   | 平成28年度の組織改編が効果を上げ始め、新たな研修も始まったことなどが、今後はより一層の部署間連携を図り、学校が一体となって教育を実施することが期待される。                                    |
|                                | 5 運営組織は明確にされ、有効に機能しているか。  | 4.2                | 学園ならびに学校組織図は教職員に提示されており、概ね機能していると思われる。<br>※教育計画、学校組織図  |   |
|                                | 6 情報システム等による業務の効率化が図られているか。   | 4.1                | 教務事務支援システムやワークフローシステム(事務処理)が導入されており、業務の効率化が図られている。   |   |
|                                | 7 校内総合力を高めるための連携と協働体制の確立が図られているか。                                   | 3.9                | H28年度組織改革があり、4部(医療技術、リハビリ、福祉、看護通信)ができ、学科間の連携と協働体制の強化が図られている。   |   |
| III 教育活動                       | 8 教育活動に関する情報公開が適切になされているか。  | 4.4                | ホームページ、パンフレット、掲示板等で公表している。特に職業実践専門課程として認定され、より広く情報を公開している。   | 学校の根幹となる教育活動に対しては高い自己評価点を得られているが、その水準を示すためには具体的な改善内容や取り組み内容を学校にしっかりと広範することも必要である。前項と同様、教職員が部署の枠を超えて連携していくことが望まれる。 |
|                                | 9 教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。 | 4.3                | 各科において科目系統図が作成されており、修業年限に応じた教育到達レベルが定められている。また学習時間の確保についても法令に則り明確にされている。   |   |
|                                | 10 学校行事の適切な企画、円滑な運営がなされているか。  | 4.4                | 平成28年度は学園行事として入学式、卒業式、学園祭、学校行事として新入生歓迎会、バスハイク等が企画・運営された。   |   |
|                                | 11 授業規律を確保し、指導体制の立て直しが図られているか。                                      | 4.5                | 学生に対し授業中の注意事項を学生便覧等で周知させ、日直等の役割を与えることにより授業規律を確保している。また、指導の一貫性を保つため学生係からの指導に関する伝達を適宜実施している。学生の生活指導について学科の枠組みを越えての指導を行っている。  |   |
|                                | 12 関連分野の企業、関連施設等、業界団体等の連携により、教育課程の作成、見直しが行われているか。                   | 4.3                | 教育課程は法令の変更や関連分野の施設・病院等からの要望(教育課程編成委員会、事業所ヒアリング)、および学生の状況等に応じて見直しを実施している。   |   |
|                                | 13 成績評価、単位認定の基準は明確になっているか。  | 4.5                | 学則ならびに教務規定等で基準が明確に定められている。 ※学生便覧   |   |
|                                | 14 授業評価の実施、評価体制があるか。  | 4.6                | 授業終了後、学生に対し5段階評価の授業アンケートを実施し、そのアンケートはFD・SD推進室で集約・分析され、その結果は各教員にフィードバックしている。また、公開授業を年1回(初任者は4回)実施し、他者評価を受け授業改善に役立っている。  |   |
|                                | 15 職員の能力開発のための研修が行われているか。   | 4.1                | 学園全体の研修会が1月に実施されている。また、学校に研修費制度があり、個人の裁量で研修先を選択し個々の能力開発を行っている。他職員への伝達講習会等を通して、情報共有がなされている。さらに職業実践専門課程に関する研修会にも学校として参加した。   |   |
|                                | 16 クラス担任と科目担当の連携を密にし、学生の実態にあった指導法の確立に努めているか。                        | 4.2                | クラス担任は科目の担当者と連携を密にしており、学生の情報提供や学生からの授業に対する要望事項を把握し、科目の担当者に学生の実態にあった指導方法を依頼している。しかし、学生のレベル差等より指導法に苦慮している実態が多々ある。  |   |
|                                | IV 学修成果   | 17 就職率の向上は図られているか。 | 4.4  |   |
| 18 退学率の低減は図られているか。             |   | 4.0                | 退学者は35名、退学率は15%(平成27年度は38名、5.38%)であった。理由は進路変更が最も多い。退学率減少のため個人面談の実施や学生相談室の開設によるサポート体制ができたことにより、減少傾向に向かい始めている。   |   |
| 19 卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか。 |   | 3.9                | 教員や学生サポートセンターによる事業所訪問、同窓会や各学会において卒業生の評価の把握をしている。臨床検査技師科、理学療法士科等同窓会活動も本格化してきてはいるが、整備されていない学科もあるので、卒業生の社会的活動に十分に把握しているとまでは言えない。  |   |
| V 学生支援                         | 20 学生相談に関する体制は整備されているか。   | 4.4                | クラス担任制と併せて、個人面談を実施。問題があると思われる学生に対して、その都度個人面談を実施。また、学生サポートセンター内に学生相談室を開設し、問題の把握に努めている。  | 在籍する学生に対する支援体制が学修面のみならず、経済支援まで拡充されてきたことは高く評価できる。前項とも関連するが、卒業生に対する広報支援を拡充していく方策を検討すべきである。                          |
|                                | 21 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。                                       | 4.4                | 主に日本学生支援機構の奨学金制度を利用。学生の約90%以上が利用。また、学園の支援体制として「西野学園 学費支援制度」がある。その他、前年に引き続き、一部公費を使用した「西野学園 特別経済制度」による支援を行った。  |   |
|                                | 22 保護者と適切に連携しているか。  | 4.3                | 入学時および入学後に保護者懇談会の実施。また、出席状況等は長期休業前に送付している。また、学習や生活で問題のある学生には電話連絡や保護者面談を実施し、適切に連携している。  |   |
|                                | 23 卒業生への支援体制はあるか。   | 4.2                | 教員や学生サポートセンター職員による事業所訪問の際の卒業生の状況確認、西野学園OB・OG通信「りあん」の拡充、臨床検査技師科、理学療法士科等の同窓会活動。また「学生サポートセンター」による再就職支援が本格化した。   |   |
|                                | 24 LHRなどを効果的に活用し、職業観の育成に努めているか。                                     | 4.4                | LHRなどを活用し、学生サポートセンターによる卒業生年を中心に就職ガイダンス等を実施している。  |   |
|                                | 25 社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。  | 4.4                | 新しい電子教育機器などの導入はあるが、インフラを含めた教育環境の整備が追い付かない現状もある。しかし、図書館の開設により、自主的な学習に取り組める環境は整ってきた。   |   |
| VI 教育環境                        | 26 学生が自己理解、自己啓発、自己実現をするための方策が整備されているか。                              | 4.1                | 学生が自己理解、自己啓発、自己実現をするため、専門職に関する情報の提供や見学実習等により意識を高めているが、十分とは言えない現状がある。   | 制約のある中でも教育機器の更新や図書館の整備など、教育環境の整備は着実に実施されているといえる。  |
|                                | 27 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。                               | 4.1                | 施設・設備は指定規則に則り整備されているが、開設年度が古い学科を中心に老朽化が進んだ設備もある。更新計画に基づき、適切に更新を進めて行く予定である。   |   |
|                                | 28 図書室利用の活性化が図られているか。   | 4.5                | 平成28年度4月からは新校舎に図書館が開設され本格的に稼働した。開館は平日が9時から20時30分、土曜日は10時から18時まで開館した。なお、図書館が開設して1週間の稼働日も開設された。その結果、想定以上に学生(卒業生含む)に利用されており、座席が満席になる状況も見られた。なお、28年度の稼働状況(3月31日現在)は、業務日数は274日、貸出統計は209冊、グループ学習室の利用回数は592回となった。 |   |
|                                | 29 防災に対する体制は整備されているか。   | 4.4                | 全校学生を対象に6月に避難訓練、10月に防災訓練を実施した。また、教育計画に防災組織および避難経路が記載されている。 ※教育計画   |   |
| VII 学生募集                       | 30 学生の募集は適正に行われているか。  | 4.4                | 学生の募集は募集要項、入学試験実施要項等に則り適正に実施されている。   | 少子化や競合校の増加といった厳しい条件が入学者数に表出しており、それは医療・福祉従事者の減少にも直結する問題である。卒業生や教職生の活用など、広い視野で募集を考えてほしい。                            |
|                                | 31 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。                                     | 4.3                | 相談会、体験入学、学校説明会等の学生募集活動において、教育内容、学校生活、園試合格率、就職状況等に関する事項は正確に受験生に提供している。また、ホームページにも詳細が掲載されている。  |   |
| VIII 財務                        | 32 中長期的に学校の財政基盤は安定していると言えるか。  | 4.5                | 学科により定員充足状況は差がみられたが、中長期的にみて学園の財政基盤は概ね安定していると思われる。  | これまでに引き続き、健全な財務状況を維持しているといえる。   |
|                                | 33 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。  | 4.5                | 予算・収支計画は学園本部で策定し、理事会で承認後施行された。平成28年度の予算・収支計画は入学減少のため、前年度より収入減となったものの、収支は概ね適切な範囲と思われる。  |   |
| IX 法令等の遵守                      | 34 法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。                                   | 4.6                | 適正な学校運営に当たり、法令・専門学校設置基準等は厳格に遵守している。平成28年度は9月に教学監査が実施され、教務関連書類等の確認・指導を受けた。また、各科により「自己点検」も実施されており、適切な運営に努めている。   | 法令に基づいた教育活動は、学内の教学監査によるも引き続き担保されている。学生へのコンプライアンス教育に対応する体制整備が急務であるといえる。  |
|                                | 35 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。                                      | 4.5                | 「西野学園 個人情報保護方針」が定められており、これに則り個人情報の保護に努めていた。学生に対しては入学時に学生係作成「学生指導マニュアル」、学生便覧等により指導を行った。また、学外での実習時には実習先と個人情報保護に関する協定を締結している。しかし、近年SNSなどの利用によりトラブルが発生しており、学校側の指導体制が急務である。 ※学生便覧                               |   |
| X 社会貢献等                        | 36 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。                                 | 4.5                | 講堂、実習室、視聴覚室は学科関連団体を中心に研修会・講演等に積極的に貸し出された。体育館等も少年サッカー団やフットサルチームにも定期的に貸し出しを行った。また、福祉系学科では地域交流特別事業による特別講座を開催し、多くの地域住民の方に参加していただいた。  | 本校の最大の社会貢献は、医療福祉の分野へ卒業生を送り出すことである。今後も地域や関連団体と連携を図りながら、有用な人材を輩出してほしい。  |
|                                | 37 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか。  | 4.5                | 福祉系の学科を中心にボランティア活動は必須となっており、その他の学科も主に関連機関の要請に基づき学校として奨励・支援している。また、町内会の協力の下、園遊治いの花壇整備や地域清掃などを実施した。  |   |
| 全体平均                           |   | 4.3                | 評価基準5段階 適切-5 ほぼ適切-4 やや適切-3 不適切-2 わからない-1 ※「わからない-1」は全体平均の対象外   |   |

## 4 総括

前年度と比較して全体的に評価が向上し、概ね高い水準での教育活動が実施されていることが確認できる。国家試験の合格率及び専門分野への就職を高い水準で維持すべく、全体指導はもとより個人を対象とした学生指導が年々強化されている。

本学園では、平成28年度に学習・生活・就職の支援を行う部署である学生サポートセンターが新設され、臨床心理士も配置され、学生生活上の様々な相談にきめ細かく対応している効果が出始めているといえる。

また、新校舎の完成に伴ってオープンした西野学園図書館では、平日は20時30分まで利用可能なことから放課後遅くまで定期試験や国家試験対策の勉強をする姿を多数、目にすることができ、卒業後にも休日開館を利用した学会発表の準備等を行うことも期待される。

学内でも多職種連携プロジェクトの展開や、「わかる授業推進」や「産学連携・地域事業開発」、「研修・コンプライアンス」をテーマに各委員会が今年度より活動を開始した。今後も西野学園が有する「資源」を最大限に活用し、時代の変化に対応した教育を推進していく所存である。

今後も地域と共に歩む学校として、学校行事の地域開放や授業における地域との連携などに取り組むとともに、地域社会から必要とされる学校であり続けるための努力を続けていきたい。

以上をもちまして、学校関係者評価の報告とさせていただきます。

平成29年12月7日

学校法人西野学園

札幌医学技術福祉歯科専門学校 校長 澤田和宏